



(昭和12年生)

## 私のウォーキングコース

東区・郡元支部 尼子 春樹  
(隆成会病院)



城山自然遊歩道を歩き始めたのは26年前、いつか富士山に登りたいがためだった。残念ながら実現はしなかったが、歩くことだけは続けてきた。昨年は体調をくずして少し休んだが、幸い進歩した医学と主治医のご加療のおかげで回復し、今度はリハビリテーションということになった。

約1時間ばかり歩く間にはいろんな事を思ったり考えたり、季節の花、虫や鳥の鳴き声を楽しんでいる。そんな道の傍に興味を持った樹がある。歩き始めた頃から遊歩道の入口に立っている2.5mばかりの高さの大きな幹だけの榎である(図1)。幹の内側は空洞となっており、しかもその表面は東側半分のみで西側は朽ちて崩れ落ちており、残った内側には苔が付着している。勿論、緑の葉はない。樹木にとって大切な光合成が出来ないのに何故朽ちてしまわないのか、と思っていた。この謎解はピーター・ウォールレーベン著の「樹木たちの知られざる生活」に記されていた。それは「友情」という項で、ブナの森で奇妙な形をした岩だと思ったものが400年から500年もの前に切り倒された古いブナの大木の切り株で中身は朽ち果て表面が残っている状態であり、葉がなく光合成が出来なくても表面の部分が残存していたのは木の細胞に必要な

糖分を近くの樹木から手助けを受けていたからだと記されていた。その手助けは根っこを通じてであり、どのようにして通じているかは根と根が直接つながったり、根の先が菌糸に包まれ、その菌糸が栄養の交換を手伝ったりするからで、しかもそれは同一種どうしだけでなくライバルにも栄養を与えると書かれていた。

このことは人間社会と同様に協力することで生きやすくするための森を形成し、多くの樹木で生態系を作ること風雪、暑さ寒さにも木にとって棲みやすい自然環境を作るためと説明されていた。

遊歩道の両側には多種類の植物があり樹木もいろいろで大木や低木、中には芸術的ともいえるような曲ってしまったもの、葛にグルグルに巻きつかれたものや老木で根元近くは朽ちて空洞になったものもある。そんな中には明らかに先の榎同様に他の木の助けを受け



図1 榎、頭上はノシラン

ているだろうと思われるものがある。

その1本は登りはじめてすぐ左側の崖の石を抱きかかえたような根っこに細い幹の木(図2)で、ここは生えているのが石の上というのもそうだがその上もさらに厳しい場所です。上空は周囲の大きな樹木の葉におおわれ直接の陽射しは望めず、他の木の友情も立っている場所から受けづらく、光合成もままならない。以前TVでド根性の木として屋根の上や石垣の間に生えているものが取り上げられていたが、最初の内、この種のもは陽射しを独占できる場所なので、ド根性とは少し違うのではないかと思っていたが、考えてみるとこの環境では風雪に耐える仲間もなく、根からの援助もなく孤独に耐えねばならず、やっぱり根性ものだと思直した。

もう1本は展望台近くの幹の太い楠の木で平成4年の台風で幹がポッキリ折れた木(図3)で、最初のころはささくれだった白い断面をさらけ出していたが、今では通常の幹から斜

めに出た枝の型ではなく断面の周囲から垂直に3本の太い枝に葉を茂らせている。この木もまた十分な葉が出来るまでは他の木のお世話になったことだろう。

展望台に着いたらいつも錦江湾を行き来する桜島フェリーがその航路の半分くらいを進む間休み絶景を楽しむ。この景色は初めてと思われる旅人に「あ！これは!!」とか「すごい、すごい」といわせるほどの感動の声をあげさせている。

この景色の起源は約29,000年前の始良大噴火によって鹿児島湾が生まれ、シラス台地が広がり、その3,000年あとの26,000年前に桜島の噴火が始まって今日までには17回もの大噴火を繰返して今でも噴煙を上げていることによる。いつも歩いているこの場所がそのシラス台地の上に桜島大噴火のうちでも最大の12,800年前の北岳桜島大噴火の火山灰が堆積して出来上がった所で、火山の長い長い歴史を思えばその一瞬ともいえる時を生きる自分が

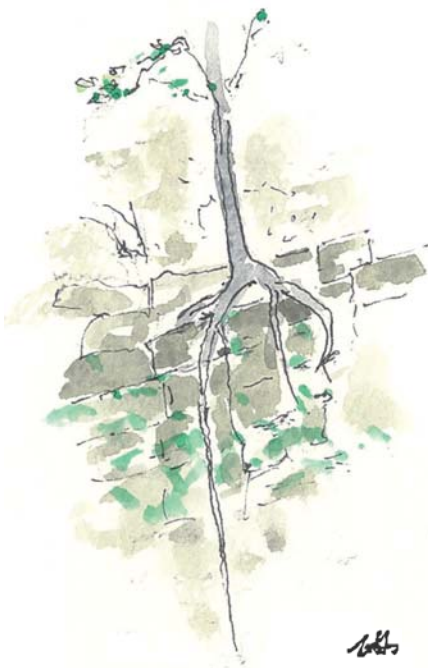


図2 崖の木

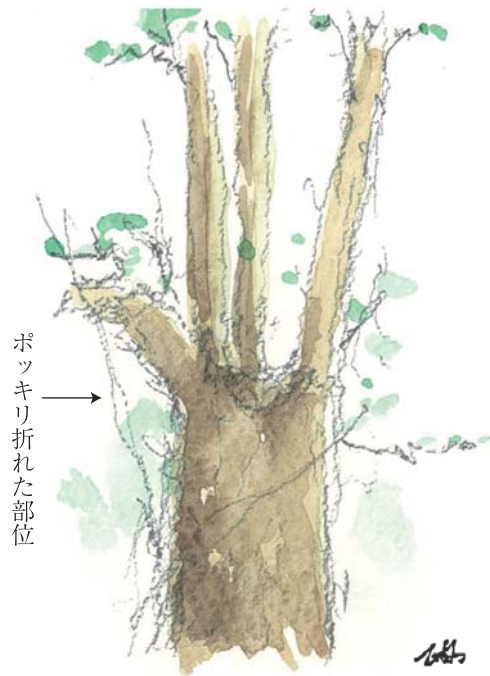


図3 台風から再生した木

その上を歩いていることにはなんとも言いよ  
うのない気持ちになる。

汗も引いたところで下ることに、下りは登  
る時とは違ってゆっくりした気分で「博打の  
木」や「小便の木」,「バリバリの木」など面  
白い名の木をさがしたり、登る時には甲高い  
鳥の声（夏には蟬がうるさいほど）しか気にな  
らないが下りでは街の騒音までもが聞こえ  
てくる。低い山でも登る時と下る時、体にとっ  
てはいわば、ONとOFFがあり平坦な道を歩  
きつづけるよりいいかもしれない。

このウォーキングコースは街中であって、

樹齢およそ400年にもなるという楠の大木を  
はじめ常緑広葉樹やシダ類など600種にも及  
ぶ緑豊かな林相があり、空気は樹木のフィル  
ターとしての働きのおかげで多分少しは澄ん  
でいるだろうし、樹木たちの発するフィトン  
チッドや芳香物質も期待出来る。こんないい  
環境の自然遊歩道、いつも何人もの人が歩い  
ている。登る時も下る時も元気のいい人にド  
ンドン追い抜かれて残念に思うことがある。  
しかし、そんなことはあまり気にせず七回目  
の年男はすべてのことに「牛歩」で前へ!!と  
思っている。